

こんにちは
教育委員です



発　行：今　金　町　教　育　委　員　の　会
〒049-4393　北海道瀬棚郡今金町字今金４８－１
TEL：0137-82-3488 【No.121】H25(2013)．12．12
E－mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

第１０回日本協同教育学会北海道大会

本気と元気とやる気で参加

読書と作文のまち今金ワーキングチーム

学校・地域・行政・大学の協同による教育づくり・まちづくり
―読書と作文のまちづくり―

小さな町の教育実践が学会のシンポジウムという夢の様な舞台で「実践発表と学会研修」という機会をいただき、今金町からワーキングのメンバー１２名が参加しました。読書と作文のまちというコンセプトにたどりつくまで粘り強くご指導を頂いた北海道教育大学の鹿内信善教授のご配慮により実現したものです。

日本全国から北海道の地に参集した大学教授をはじめとする小・中・高の教員や大学生の皆さんです。第１０回という節目となった大会は、11 月 29 日（金）、札幌市立西宮の沢小学校での「『みる』をキーワードにした協同学習・協同教育」の授業公開、11 月 30 日・12 月１日は、札幌大学を会場に記念講演、シンポジウム、研究発表、実践報告、ワークショップが行われ、本町のワーキングチームもワークショップとシンポジウムに参加しました。



シンポジウムは、鹿内先生のコーディネートにより、今金町の３名（今金町教育委員会教育長の中島光弘、読み聞かせサークル代表の小川ひとみさん、今金小学校教諭の山寺潤さん）が発表し、行政の視点から中島教育長は、「自らも学び、今金のファンをつくり、次へつなげることが教育長の仕事・・・」、地域住民の視点で小川さんは、「読み聞かせを通じて、地域や子ども達を育てることに貢献できる喜び・・・」、教員の視点から山寺先生は、「今金の教育は、本気の心で学校へ一歩も二歩も歩み寄ってくる、協同の精神が幸せにつながるのでは・・・」。山寺先生の協同の精神は、幸せにつながるという仮説の答えを鹿内先生は、フロアーにおられた日本協同教育学会前会長で久留米大学の安永悟教授に答えを求め、安永先生から「協同教育の目的は、全ての人が平和に暮らすことができる社会。」「貢献に上下なし～下から支えるリーダ～・・・」という明快な回答。



鹿内先生の素晴らしいコーディネート、そして、それに応える素晴らしい回答。協同教育学会は、知の集団です。凄さ実感の場面でもありました。

その後、お二人から助言をいただきました。札幌の久住書房の久住邦晴さんからは、「人口６，０００人の小さな町に本屋さんが２軒もあることは本当に素晴らしいこと、本屋を大切にする町づくりをして下さい」。

我が母校である中京大学の杉江教授からは、愛知県犬山市の教育改革に非常勤公務員としてかかわり、「子どもの育ちの可能性と学校の自立、少人数指導で協同学習を取り入れた子ども達の主体的な授業について」ご紹介いただきました。

まとめに鹿内先生からは、大学から今金町へ専門的なスキルが提供され、「今金町読書と作文のまちワーキングチーム」ができ、それが地域や学校へ学びのかたちとして提供され、大学と今金町の連携が行政を通じ地域や学校へのサポートにつながってゆくという「知のトラスト」について解説いただきました。また、鹿内教授の「看図作文」に興味をもっていただき、今金町と深いご縁ができた鶴羽佳子さん（北海道教育委員会教育委員、フリーアナウンサー）もシンポジウムに駆けつけていただきました。



シンポジウム終了後開催された懇親会でも沢山の皆さんに今金町の「読書と作文のまち」構想について評価やご助言をいただきました。



素晴らしい研修と発表の機会を頂きました鹿内先生と日本協同教育学会の皆様に心から感謝を申し上げます。

また、１２／１（日）の午後からは、帰路を活用して「読書のまち恵庭～恵庭市立図書館～」の先進地視察研修を実施しました。休日にもかかわらず、寺崎館長、橋場次長、内藤課長に対応頂き、「恵庭まちじゅう図書館」、「恵庭市人とまちを育む読書条例」、「図書館開館 24 時」、図書館施設見学など先進的な事例等を懇切丁寧にご説明いただきました。ありがとうございました。



委員リレー寄稿「歳時記」



今月は、平井委員長職務代理です。

ぶ じ これ き にん
『無事是貴人』師走に思う

毎年のことですが、この時期になると心も身体も忙しいなか、今年一年を振り返り、年の始めにたてた目標や計画や心に誓ったことが出来たか、中途半端か、悔いがあったか、良いこと悪いこと、幸せなこと辛い事を考え、反省する日々と、一年の速さを感じるこの頃です。



新たな年の目標をあれやこれや考えていたら思い出したのが、表題の“無事是貴人”有名な言葉です。人にこの言葉の意味はと聞くと、「自分にはこれといった事もなく無事に日々を過ごし一年が過ぎてめでたく新年を迎えることが出来るひとが貴い人」と考える人が多いのかと思います。

真の意味は、無事とは幸せ不幸、善か悪、損か得等に固執しない新境地。貴人とは、尊い地位の人や貴族ではなく、不安や迷いの無い身も心も安らいを得た人のことです。人生には歳末も元旦もありません。一日一日の積み重ねだと思います。私は、並の人間です凡夫（ぼんぶ：普通の人、凡人の意味）ですから、この時期一年一年を反省し修正しながら、新しい心境と自分を創り“無事是貴人”に精進努力し、充実した日々と人生を送りたいと思っています。



「過ぎ去った日のことは悔いず、まだ来ない未来にはあこがれず、取り越し苦労をせず、現在を大切にふみしめてゆけば、身も心も健やかになる。今日すべきことを明日に延ばさず、確かにしていくことこそ、よい一日を生きる道である。」（仏教聖典より）一日一日を大切にしなやかに、そして無事是貴人を目標に新しい年からの生き方を考えています。

時節柄、御自愛専一を家門繁栄、万福多幸、福寿長久を御祈念します。

自愛専一（自ら、健康を保つよう気をつけて下さいという意味）

平成２５年度今金町教育委員会
教育委員教育施設訪問実施

教育委員による、教育施設訪問が１２／５（木）実施され、道立今金高等養護学校、認定こども園いまかね、学童保育所を訪問しました。



今金高等養護学校では、佐々木校長先生から学校経営や特別支援教育の動向等の説明を頂き、その後、産業科１年の実習授業を参観しました。

認定こども園いまかねでは、苅屋施設長、上田事務長、垣本園長から平成２６年度にむけての町や教育委員会への要望や運営状況について説明頂き、その後保育の様子を参観しました。



学童保育所ルンルン子どもクラブでは、岩坂主任指導員や指導員のみなさんから児童の実態や今後の課題にむけて意見交換が行われ、特に、今後の指導体制や学童保育所における特別支援教育の在り方について課題の共通理解を図りました。



三教育施設とも子ども達を中心に置いた運営がなされ、教育委員会として更なるバックアップ体制の必要性について確認いたしました。

年の瀬に家族を考えてみませんか。

「家庭は、“人間の最初の学校”である
父親のことばのアクセント、母親の微笑みの仕方、祖父の生き方、祖母の他人へのいつくしみ、それが朝となく晩となく眠り続けている時も、食事をしている時も、知らず知らずにしみ込んでいくもの　それが家庭であり
“人間の最初の学校”であることの由縁である」

皆様、良い年を迎えて下さい。